



クロナネソウ

の神の言葉を聞きました。当時、その地方にはカナン人が住んでいた(創 12:6) と記されていて、カナン人が先住民であることに間違いはありません。

けれどもここでは領土について歌っているのではなく、御自分の民の罪を赦し／彼らの咎をすべて覆ってくださいました。〔セラ (3) と、罪、咎から解放され、神の怒り、憤りも無くなった民が、再び苦境に立たされている現状、即ち、神の裁きを受けて、様々な苦難を味わっていると、告白しているのです。ほとんど、愚痴のような言葉を述べています。あなたはとこしえにわたしたちを怒り／その怒りを代々に及ぼされるのですか。再びわたしたちに命を得させ／あなたの民があなたによって／喜び祝うようにしてくださらないのですか。(6.7) けれども詩人は救いは神にのみあることを知っています。そして、いつもの祈りを祈ります。主よ、慈しみをわたしたちに示し／わたしたちをお救いください。(8) 祈る時に詩人は神の心、神の言葉を聞くことができるのです。

わたしは神が宣言なさるのを聞きます。主は平和を宣言されます／御自分の民に、主の慈しみに生きる人々に／彼らが愚かなふるまいに戻らないように。主を畏れる人に救いは近く／栄光はわたしたちの地にとどまるでしょう。(9、10) 神が平和、平安を与えると敵、味方の両者であるすべての人に表明されるのを聞きます。愛を持って生き、神に畏敬を捧げるならばという条件があります。

次の 3 節は絵のような美しい情景です。慈しみとまことは出会い／正義と平和は口づけし(11) 天の愛と、地の誠実が出会い、天の正義と地の平和が結び合う。まことは地から萌えいで／正義は天から注がれます。(12) 地の真実が次々に芽を出し、天の分け隔てのない正義が霧、雨となって注ぐ。主は必ず良いものをお与えになり／わたしたちの地は実りをもたらします(13) 神は光、雨、大地を備えられ、地は豊かに実を結ぶ。その世界は 正義は御前を行き／主の進まれる道を備えます。(14) です。

『讚美歌 21』には関連する讚美歌はありません。天の愛を花婿・主イエスと捉えて、私は 101「命と光給う神よ」 <https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2010-07-20> を賛美したいと思います。

ジュネーブ詩編歌は、リコーダーとオルガンの合奏です。画像の教会堂の正面の壁にオランダ語の文字 God is Liefde(神は愛である)が書かれているのは珍しいと感じました。

<https://www.youtube.com/watch?v=UEZ03aFiBgc&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=85>